

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

AA 研共同利用・共同研究課題「東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究」
2019 年度第 2 回研究会（通算第 2 回目）報告書

日時：2019 年 10 月 13 日（日） 14:00–18:00

場所：AA 研マルチメディアセミナー室 (306)

使用言語：日本語

主催：基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」

1. 加藤高志（AA 研共同研究員、名古屋大学）
「ラオス北部とタイ北部のいくつかの言語における語彙類型的諸側面」
2. 伊藤雄馬（AA 研共同研究員、富山国際大学）
「ムラブリ語の感情表現とその調査法」
3. 全員
「全体討論」

今回の研究会では 以下の通り 2 名の共同研究員に報告いただいた。

加藤高志（AA 研共同研究員、名古屋大学）

「ラオス北部とタイ北部のいくつかの言語における語彙類型的諸側面」

発表者は、第 1 回研究会の配布資料である倉部 (2019)「東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究に向けて」が取り上げた表現の一部分について、2019 年 8 月にラオス北部においてアカ・ヌクイ語、ムチ（ワニユ）語、ボンセット語の調査を行った（3 言語ともチベット・ビルマ語派ロロ諸語に属する）。この発表では、これら 3 つの言語とタイ北部で話されているリス語（これもチベット・ビルマ語派ロロ諸語に属する）、合わせて 4 つの言語を中心に、語彙類型的諸側面について報告を行った。まず、倉部 (2019) が取り上げた表現の一部分が、8 つの語彙調査票においてどのようになっているかを整理した。そして、「借りる」、「洗う」、「運ぶ」、「行くと来る」、「重い」、「兄弟姉妹」、「日食・月食」、「シチメンチョウ」について、上記 4 つの言語を中心に、中国語、タイ語、ラーオ語などのデータも加えながら、分析を示した。とくに、「運ぶ」については、移動の意味が含まれているのかどうかを丁寧に調べる必要性を指摘した。

伊藤雄馬（AA 研共同研究員、富山国際大学）

「ムラブリ語の感情表現とその調査法」

本発表では、ムラブリ語の感情を表す語彙について、まず調査方法と意味記述の方法について検討し、そのあと k101「心」を用いた感情表現の調査・記述結果を示した。感情の意味は主観的な感覚であり調査や意味記述が難しい。本発表では、心理学の感情研究で採用されている、画像を用いた調査方法を紹介した。意味記述については、評価極性（良い／悪い）と興奮度（興奮／冷静）の二次元の図に感情表現をマッピングする記述方法を提案した。これら手法を用いて、ムラブリ語の「心が上がる／下がる」の記述を行った。その結果、「心が上がる」は「良い感情」であり、「心が下がる」は「悪い感情」であることが確認された。この結果は認知言語学において普遍性の主張されている「上がるは良い、下がるは悪い」という概念メタファーに反する例であることを示した。

（発表要旨は発表者による）